

同文書院記念センター展示室紹介

第一展示室

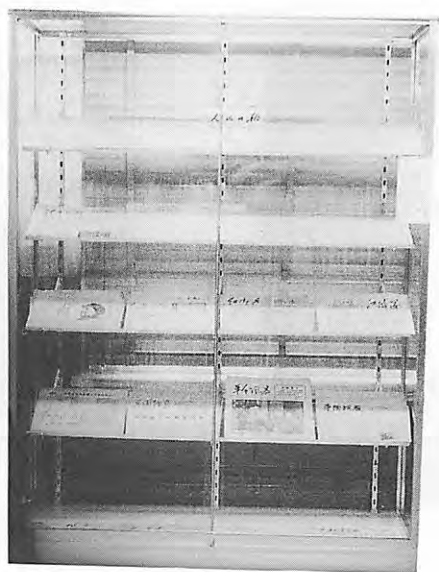
センターライブラリー・オリエンテーリングルーム



② 室内



① 室内



③ 紅衛兵新聞

第二展示室

山田浩蔵と良政・純三郎兄弟



⑤ 留書 御出馬、御旗本一大隊御備組
浩蔵が津輕藩兵の編制について
記したもの



④ 写真 兄弟の父 山田浩蔵 (1838～1918)
浩蔵は津輕藩士



⑦ 写真 山田良政 年代不明



⑥ 写真 山田良政・純三郎・四郎の兄弟
右から純三郎、良政、四郎 年代不明

⑧ 書簡 山田良政から父浩蔵へのもの
1894 (?) 年 8 月 5 日 上海

⑩ 書簡 山田良政から弟純三郎へ
9 月 12 日 (年不明)

⑨ 書簡 山田良政から母せきへ
9 月 20 日 (年不明)



⑫ 写真 「山田良政の慰霊祭」
山田良政は1900年広東省惠州における革命軍蜂起で戦死
1918年 7 月 28 日 上海



⑪ 掛軸 「山田良政先生墓碑」孫文 書
孫文が公式訪問した折、東京谷中の全生庵に建立された墓碑の銘文の一部を書き換えたもの
1913年 2 月 17 日



⑬ 弔詞 平岡小太郎の弔詞 1918年7月28日



⑭ 写真 「山田良政先生之碑」除幕式
1919年9月29日 青森県弘前市新寺町 貞昌寺



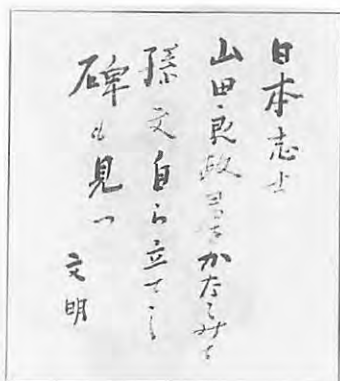
⑮ 写真 「山田良政先生之碑」孫文 書
1919年9月29日 青森県弘前市新寺町 貞昌寺



⑫ 手帳 山田順三郎の日記

「9月29日（木）細雪 実兄良政、廣東惠州三多祝革命に参加戦死の日」とある。良政は1900年（清光緒26）10月22日（旧暦では8月29日）戦死。

9月29日は月遅れの命日にあたる 1955年9月29日



⑬ 色紙 山田良政碑を詠んだ土屋文明の短歌

1944年に南京の中山陵を訪れた折、山田良政の碑を見て詠んだ短歌。『葦菁集』所載「続南京雑歌」中の一句。山田順造に贈ったもの



⑭ 掛軸 山田良政を誦める戴季陶（天仇）の書。傳賢は字。

戴季陶は孫文の秘書。著書に『日本論』（1928年）がある
1919年10月10日

孫文（中山）と宋慶齡



⑳ 掛軸 「天下為公」孫文 書
孫文から山田純三郎に贈ったもの
年代不明



㉑ 掛軸 「至誠如神」孫文 書
孫文から山田純三郎に贈ったもの
年代不明



㉒ 写真 孫文のサイン入り写真
孫文から山田純三郎へ贈ったもの
1914年（民国3）11月



㉓ 胸像 孫中山先生遺像
梅屋庄吉が孫文の死後製作し、
日中両国の関係者に贈ったブロンズ像。梅屋は孫文の熱烈な支援者。
銅像は今も南京中山陵にある



②④ 写真 孫文・宋慶齡のサイン入り写真
1921年4月7日孫文の広東政府
大總統就任を祝って山田夫妻に
贈ったもの
1920年10月 上海



②③ 写真 宋慶齡のサイン入り写真
年代不明



②⑤ 書籍 『總理全集』胡漢民 編
上海民智書局 (1921年)



②⑦ 書籍 『宋慶齡選集』仁木ふみ子 訳
ドメス出版 (1979年)



②⑥ 書籍 『孫中山・宋慶齡与梅屋庄
吉夫婦』俞辛焯 著
中華書局 (1991年) 出版

辛 亥 革 命 前 後



②⑨ 写真 デンバー号船上の孫文と同志たち
前列左からホーマー・リー、山田純三郎、胡漢民、孫文、陳少白、何天炯。後列左から6人目は宮崎滔天 1911年12月21日 香港



②⑩ 写真 孫文と山田純三郎
孫文が欧米訪問を終え香港に着いた時、純三郎はデンバー号船上で出迎え、上海まで同行
1911年12月21日



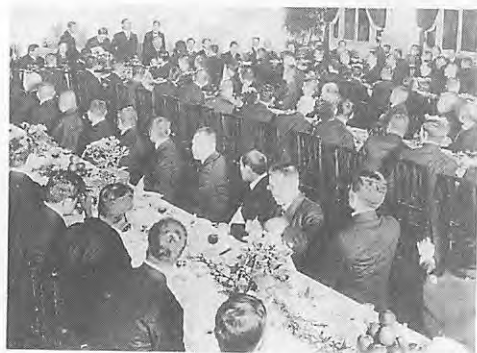
③① 写真 黄興のサイン入り写真
南京臨時政府陸軍総長の黄興から山田純三郎に贈ったもの。黄興は孫文と並ぶ革命派首脳
1912年春 上海



③② 写真 三井物産上海支店長に招かれた孫文
前列右から森恪、宮崎滔天、山田純三郎。
2列中央が孫文、右から2人目廖仲愷
1912年4月6日 上海 六三亭



③② 掛軸 「履忠蹈信」黄興 書
山田純三郎に贈ったもの 年代不明



③④ 写真 東亜同文会歓迎会での孫文
1913年2月15日 東京 華族会館



③③ 写真 公式訪日の孫文
前列中央が孫文、中列右端が山田純三郎
1913年2月東京

在日本东亚同文会欢迎会的演说

(一九一三年二月十五日)

今日之会，似有欧美之人列席，彼决不能辨别孰为中国人，孰为日本人。昔年予游欧美，美国，曾在日本人以日本語相问，又有中国人以中国语问日本人者。中日两国之关系，既如是其密切，余之过去二十年内，常仕于日本，是日本不曾卸予之第二故乡。今予赴贵会之欢迎，与诸君一堂相聚，愿诸君视为家庭之叔侄可也。

现今在亚细亚之独立国，即日本及中国二国，而维持现今之东亚和平，决不能不系乎日本。日本及中国实兄弟之原也。日本自四十年前以来，输入欧美之新制度，改革国政，近求缔造发展，以成一大帝国。中国之建国故事，俄因革命而促，因列强之压迫，已迫及于今。革命之成功，今年建设方始，国家未固。革命之成，列国严守中立，实因在日本为后援，其助力甚多。土耳其受挫以后，国土特被分裂，固因孤立无援之故也。但单只日本一国，决不能永久维持东亚之大局，当与中国扶助，携手进步。东亚同文会之设立，即本此旨，此予之所信也。

日本及中国既如兄弟，但其一为进步向上的，其一为落后迟滞进步的，且不示其兄弟之忠告，终至意思隔阂。日本对中国固以为无复隔阂，中国对日本亦以为不可信赖，数十年以来，所生纠纷，不鲜此结果也。

今者中国已醒矣，但决非初期，势力微弱，且其他固不利中日二国之亲善，且日本对于中国之爱憎，亦尚未定，故他国每每乘中告之语言。中国之人，亦多不研究其真相，轻易信之，而生误解。若长此不已，必伤中日两国之感情，东亚前途，断是末心。故为东亚之大局计，维持平和，实中日两国国民之义务。兄弟之间，宜知已知彼，互相扶助，互相扶助。予来游之日虽尚浅，但深知日本对中国之好意，归国之后，必速尽说明之劳，鼓吹两国国民之亲善，今少承贵会招待，聊陈所怀。

原载《孙文第六号》(中国国民党革命委员会)

③⑤ 挨拶 東亜同文会歓迎会での孫文スピーチ
1913年2月15日 東京 華族会館



③⑥ 写真 訪日中、招宴会での孫文
後列右から山田純三郎、3人おいて戴季陶、2人おいて孫文、頭
山満。孫文の前は梅屋庄吉（旗を持つ）1913年2月 東京 紅葉館



③⑧ 写真 朝日新聞社訪問の孫文
左2人目から山田純三郎、孫文
1913年2月



③⑦ 軍需公債 1912年2月中華民国政府発行



④① 写真 大連における陳其美と山田純三郎
1914年孫文は東北と山東半島に
おける革命勢力を結集するため、
2人を大連に派遣した。山田淳三
郎は満鉄嘱託の身分で協力した
1914年1月～3月 大連満鉄病院



③⑨ 写真 中華革命党結成記念写真
前列右2人目から廖仲愷、居正、胡漢民、
孫文、陳少白、陳其美 1914年 東京



④② 写真 山田純三郎宅で暗殺された陳其美
陳其美は山田純三郎宅で袁世凱
の手下により暗殺された。山田宅
は上海フランス租界にあり、同志
の連絡場所として使用されていた
1916年5月18日 上海



④① 写真 陳其美のサイン入り写真
陳其美から山田純三郎に贈っ
たもの。陳其美は革命派の幹部。
国民党の陳果夫、立夫兄弟の伯
父にあたる。討袁活動の中心人
物



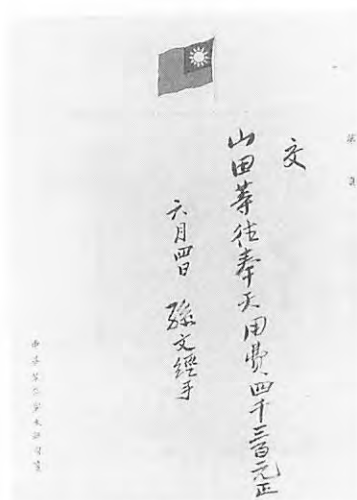
④③ 掛軸 陳其美 書
山田純三郎に贈ったもの 1914年初秋



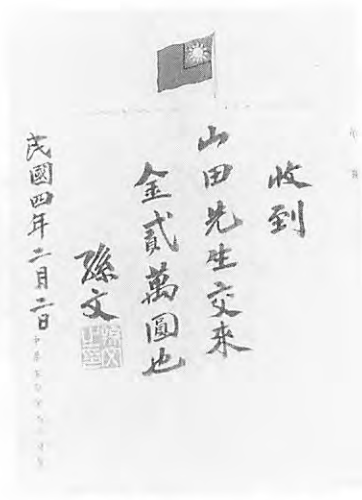
- ④5 書籍 『陳其美傳』
莫永明 著 上海社会科学院出版社 (1985年)



- ④4 書籍 『陳其美』
潘公展 著 勝利出版公司 (1954年)

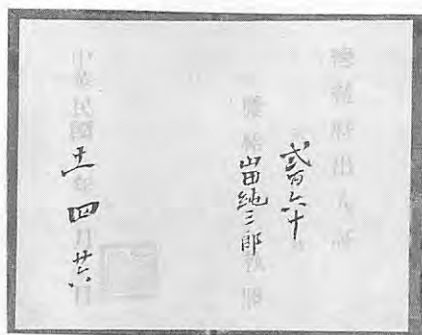


- ④7 支払命令書 孫文が書き与えたもの
1915 (?) 年 6 月 4 日

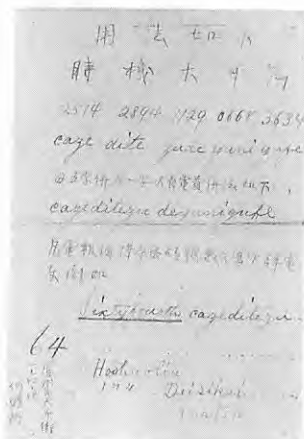
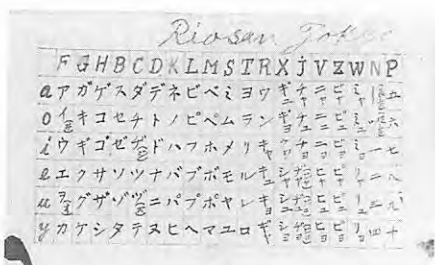


- ④6 領収書 孫文が山田純三郎に与えたもの
1915年 2 月 2 日

孫文が廣東政府首脳が段祺瑞援助政策の中止を日支国民協会・外交調査会・樞密院・貴族院・衆議院などに訴えたもの
1917年11月20日



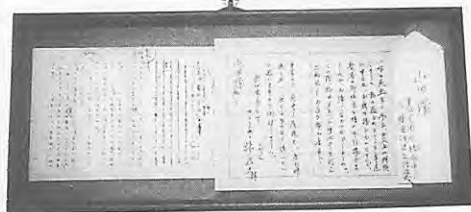
山田純三郎に与えられた広東政府総統府出入証
1922年4月26日



⑤ 暗号電報 広東政府首脳間で用いられたもの
山田純三郎が孫文との電報の発・
受信の際に使用したもの 年代不明



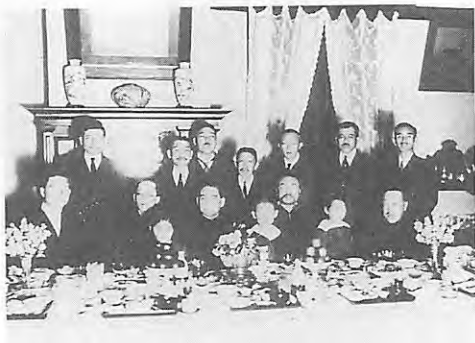
⑤② 写真 訪日中、頭山満らと会談する孫文
後列左から山田純三郎、前列中央孫文、
右へ頭山満、戴季陶、李烈鈞
1924年11月25日 神戸オリエンタルホテル



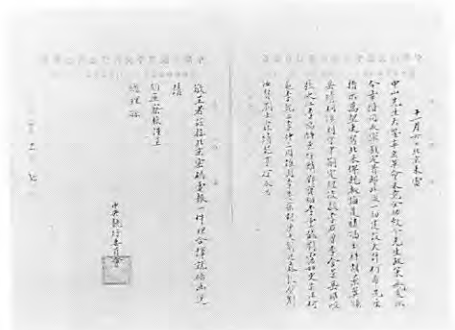
⑤① 原稿 犬養毅宛の孫文書簡に対する山田純三郎の回想
1923年11月16日、第2次山本内閣の
通信大臣に就任した犬養毅宛の孫文の
書簡について、戦後回想した自筆原稿



⑤④ 写真 天津港に到着の孫文ら
宋慶齡、孫文、戴季陶ら 1924年
12月4日 北嶺丸船上



⑤③ 写真 孫文、廖仲愷らと山田純三郎
前列左から（子供を除く）3人目が
孫文、後列右端が純三郎、2人おいて
廖仲愷 年月日不明



⑤⑤ 書簡 馮玉祥らから孫文へ宛てたもの
1924年10月23日、馮玉祥は北京でクー
デターを起こし広東政府大元帥の孫文を
北京に招き、事態を收拾しようとした
1924年11月6日

陳炯明 廣東政府要人から孫文へ宛てたもの
山田純三郎が保存していたもの
年月日不明

陳炯明 廣東政府要人から孫文へ宛てたもの
山田純三郎が保存していたもの
年月日不明

56 書簡 陳炯明ら廣東政府要人から孫文へ宛てたもの
山田純三郎が保存していたもの
年月日不明

陳炯明 廣東政府要人から孫文へ宛てたもの
山田純三郎が保存していたもの
年月日不明

陳炯明 廣東政府要人から孫文へ宛てたもの
山田純三郎が保存していたもの
年月日不明

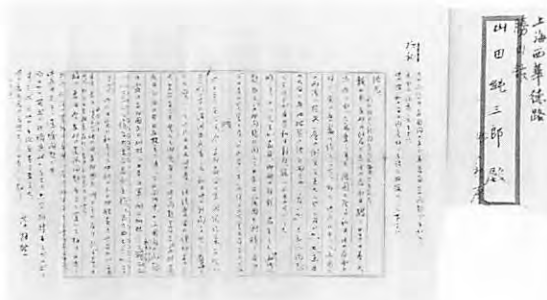
57 書簡 山田純三郎と廣東政府首脳間のもの
1925年8月26日の広州における廣東政府軍と日本海軍陸戦隊との衝突(水兵事件)の解決のため、山田純三郎は日中双方の交渉の連絡員の役割を果たした

山田純三郎と廣東政府首脳間のもの
1925年8月26日の広州における廣東政府軍と日本海軍陸戦隊との衝突(水兵事件)の解決のため、山田純三郎は日中双方の交渉の連絡員の役割を果たした

58 招待状 孫文らへ宛てたもの
山田純三郎・四郎連名による孫文ら廣東政府要人宛招待状。各人出欠のサインがある



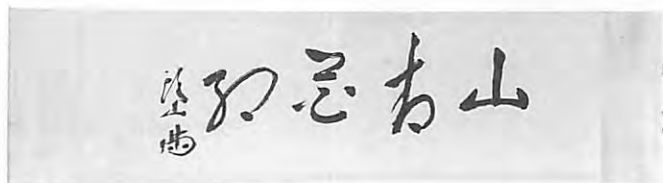
⑤9 通行証 国民政府總統府出入証
1925年9月29日



⑥0 書簡 戴季陶から山田純三郎へ宛てたもの
奉天軍閥郭松齢の事件に対して関東軍が介入しないよう
勧告してほしいと要請した
1925年12月20日



⑥1 掛軸 「怨無怨」犬養毅 書 1929年夏 戴季陶宅にて



⑥2 掛軸 「山青花紅」頭山満 書 1929年夏 戴季陶宅にて

第三展示室

孫文逝去



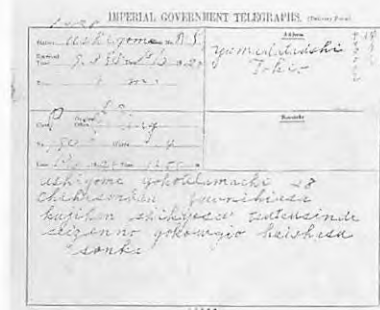
⑥4 電報 後藤新平から孫文へ
宛てた病状見舞い
1925年2月28日



⑥3 電報 孫文から山田喜代（純三郎の妻）へ
の見舞い返礼
1925年2月11日



⑥5 写真 孫文遺言状
山田純三郎はただ一人の日本人として臨
終に侍した 1925年3月11日 北京 鉄獅
子胡同



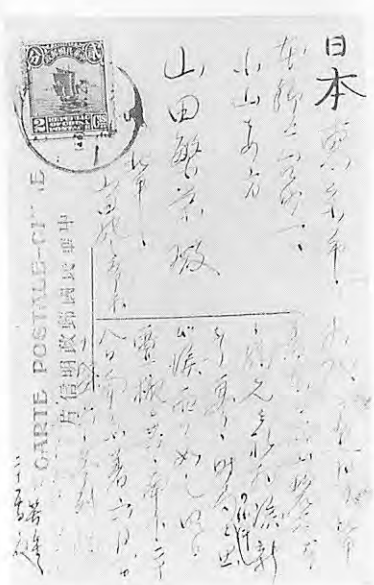
⑥6 電報 孫科より山田忠への孫文の訃報
孫科（孫文の長男）から山田
忠（純三郎の長男）宛 1925年
3月13日 北京

⑥7 通知状 孔祥熙国民政府総理奉安委員会
総幹事より山田純三郎へのもの
山田純三郎夫妻宛の孫文移靈
祭招聘状 1925年5月8日





69 写真 孫文移靈祭
孫文の柩は北京西山の碧雲寺から南京中山陵に移された
1929年6月2日 南京 中山陵



68 葉書 山田純三郎より家人へのもの
孫文移靈祭のため北京・西山の碧雲寺に参拝したことを記す 1929年5月25日



71 写真 移靈祭参列の山田純三郎
1929年6月2日

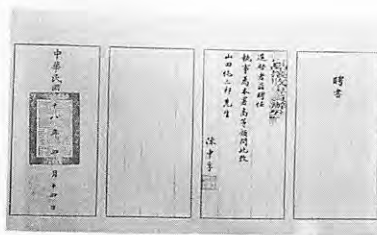


70 写真 孫文移靈祭 1929年6月2日 南京 中山陵

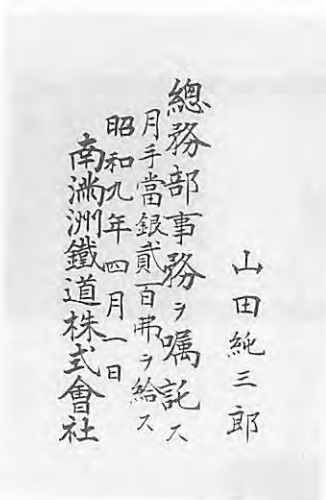
国民政府期



⑦③ 招聘状 国民政府外交部顧問の招聘
1931年6月20日



⑦④ 招聘状 国民政府顧問の招聘
国民政府青島接收専員辦公署高等顧問就任の招聘状
1929年4月14日



⑦⑤ 辞令 満鉄嘱託の辞令
1934年4月1日



⑦⑥ 写真 「江南正報」社長の山田純三郎
前列真中。後列右から2人目は台湾の作家、張深切 1932年3月



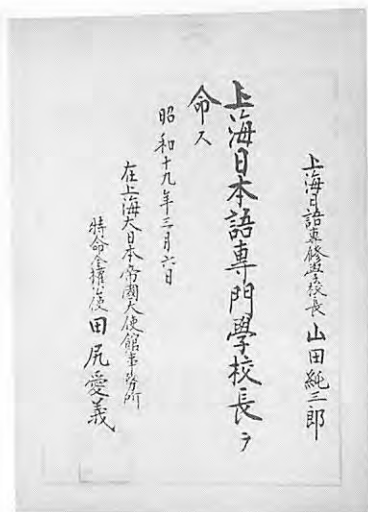
⑦⑦ 写真 上海日本語専門学校卒業記念
前列右から5人目山田純三郎
1944年3月26日



⑦⑧ 通行証 国民政府陸軍第3方面軍
発給のもの

敗戦後日本人はすべて
一地区に集められたが、
山田純三郎は孫文の同志
であったことから特別待
遇をうけた

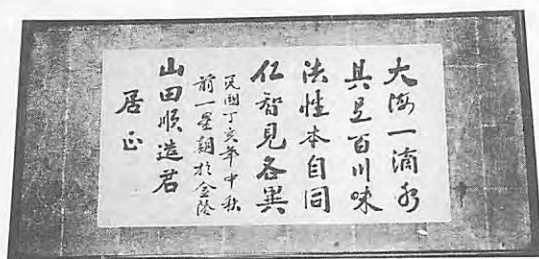
1946年3月16日



⑦⑦ 辞令 上海日本語専門學校校長の辞令
1944年3月6日

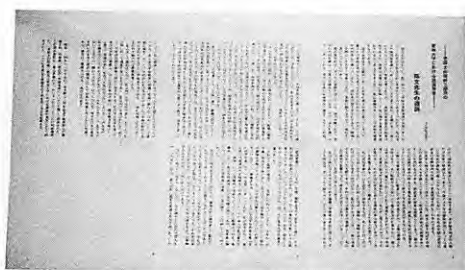
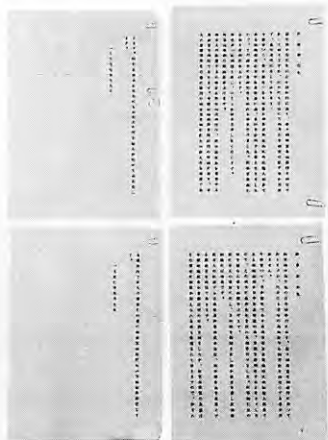


⑦⑨ 雑誌 『導報画刊』記事
山田純三郎が孫文の同志として紹介されている
1946年5月5日



⑧⑩ 扁額 居正の詩 居正は国民党の長老で、純三郎の知己 1947年

純三郎と新中国・愛知大学

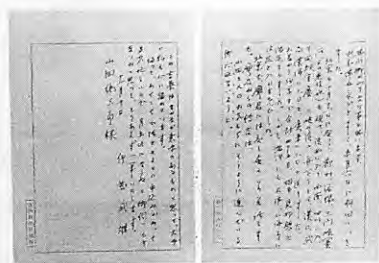


⑧① 記事 愛知大学における講演内容
1949年11月15日 創立3周年記念学術講演会

⑧② 書簡 山田純三郎より何香凝（廖仲愷未亡人）、
廖承志宛のもの
嵯峨嘉美を紹介。廖仲愷は革命派の重
鎮、のち暗殺された
1957年5月9日



⑧③ 書簡 嵯峨嘉美より山田純三郎宛のもの
北京で何香凝と面会したことを伝える
1958年6月12日



⑧⑤ 書簡 伊藤武雄より山田純三郎宛のもの
北京で廖承志と面会できたこと
の謝辞
1958年11月10日

⑧④ 書簡 山田純三郎より廖承志宛のもの
1957年11月、廖承志中日友好協会
会長訪日の際、病床にいた山田純三
郎への見舞いに対する謝意と国慶節
に参加する伊藤武雄を紹介 1958年

山田純三郎一家



⑧7 写真 壮年期の山田純三郎
年代不明



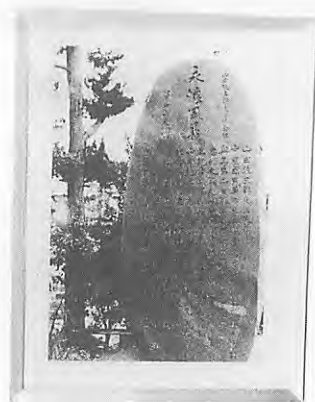
⑧6 写真 家族合影
前列左から長女民子、純三郎、妻喜代、
次女国子、後列左から四男順造、三男正純、
長男忠（次男は早逝）
1936年8月28日 上海



⑧9 写真 晩年期の山田純三郎
年代不明 青森県弘前市
新寺町 貞昌寺



⑧8 写真 晩年期の山田純三郎夫妻 年代不明



- ⑨1 拓本 「山田純三郎先生墓碑」
蒋介石 題字、何応欽 書
1975年3月29日
青森県弘前市新寺町 貞昌寺

- ⑨0 写真 山田純三郎先生墓碑 全景
1976年5月
青森県弘前市新寺町 貞昌寺



- ⑨2 記事 山田純三郎記念碑除幕の様
1976年5月7日 サンケイ新聞記事

- ⑨3 原稿 講演用の自筆原稿 年代不明

山田純三郎関係の刊行物



- ⑨4 書籍 『醇なる日本人』
結束博治著 プレジデント社

- 書籍 『仁あり義あり 志は天下にあり』
保阪正康著 朝日ソノラマ

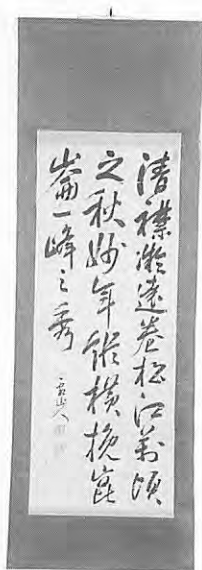


⑩ 『近衛篤磨日記』

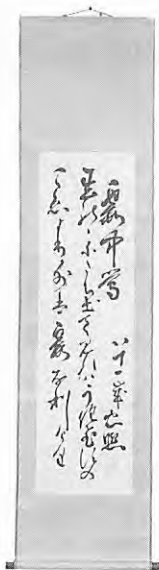


⑨ 写真 「近衛篤磨公」 1863（文久3）～1904（明治37）年 貴族院議長。
1898（明治31）年、東亜同文会会長に就任。東亜同文書院を創設

近衛篤磨と近衛家4代の書



⑩ 掛軸 「崑崙一峰之秀」近衛篤磨（霞山）書
霞山は号。清襟凝遠卷松江萬頃之秋
妙年縦横挽崑崙一峰之秀



⑪ 掛軸 「霞中驚」近衛忠熙 書
（忠熙は篤磨の祖父）
春のゝにたち出て見れはうぐひす
のこゑより外は霞なりけり



⑩ 掛軸 「松花伴鶴飛」 近衛文隆 書



⑪ 掛軸 「丹心照萬古」 近衛文磨 書

書院の指導者たち



- ⑩ 写真 本間喜一学長 (第3代学長)
1891 (明治24) ~ 1987 (昭和62) 年
第3代学長 1944 ~ 1945 年
東亜同文書院大学最後の学長として
敗戦による廃校処理にあたる。
1946 年、愛知大学を創立、第2代・
第4代学長

写真 大内暢三院長・学長 (第6代院長・初代学長)
1874 (明治7) ~ 1944 (昭和19) 年
第6代院長 1931 ~ 1940 年
1939 年12月、東亜同文書院の大学昇格と共に初代学長に就任

写真 矢田七太郎院長・学長 (第7代院長・第2代学長)
1881 (明治14) ~ 1957 (昭和32) 年
第7代院長 1940 ~ 1942 年
第2代学長 1940 ~ 1943 年

写真 本間喜一学長 (第3代学長)
1891 (明治24) ~ 1987 (昭和62) 年
第3代学長 1944 ~ 1945 年
東亜同文書院大学最後の学長として
敗戦による廃校処理にあたる。
1946 年、愛知大学を創立、第2代・
第4代学長



- ⑩ 写真 荒尾精先生 1859 (安政6) ~ 1896 (明治29) 年
東方斎は号。東亜同文書院の前身「日清貿易研究所」を上海に設立

写真 根津一院長 (初代・第3代院長)
1860 (万延元) ~ 1927 (昭和2) 年
初代院長 1901 ~ 1902 年
第3代院長 1903 ~ 1923 年
山洲は号。近衛篤磨の招請に応じ、
東亜同文書院創設に協力

写真 杉浦重剛院長 (第2代院長)
1855 (安政2) ~ 1924 (大正13) 年
第2代院長 1902 ~ 1903 年
病身のために1年で退任

写真 大津麟平院長 (第4代院長)
1865 (慶応元) ~ 1939 (昭和14) 年
第4代院長 1923 ~ 1926 年



⑩ 同文書院教職員
1940年代



⑩ 書籍 『対清辨妄』(1894年10月)、『対清意見』(1895年3月) 荒尾精 著
東方斎は号。日清戦争当時の国民世論に反し、広く大局を見て冷静に判断すべきことを訴えた



⑪ 扁額 「人の本心は善にして」 荒尾精 書



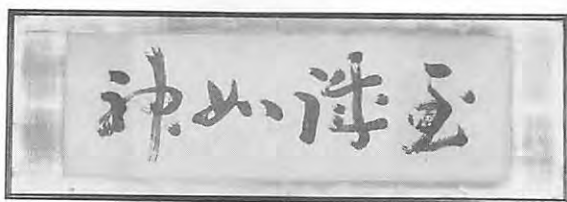
⑫ 衣服 根津院長愛用フロックコート
白いハンカチを常にネクタイがわりに用いた



⑬ 胸像 根津院長像



⑭ 銅像 山洲根津一先生之像
山洲は号



⑪ 扁額 「至誠如神」根津一 書



⑫ 原稿 根津院長の直筆原稿
1920年の安直戦争直前の動向について



⑬ 拓本 「飲水冷暖自知」根津一 書

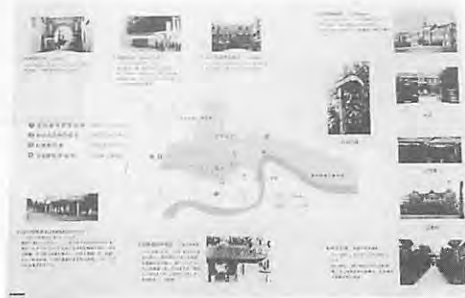


⑭ 扁額 「一道同風」黎元洪 書
東亜同文書院創立20周年記念。
黎元洪は中華民国第3代・第6代大統領

東亜同文書院（大学）の歴代校舎

高昌廟・桂墅里
東亜同文書院校舎平面図

(昭和四年十一月五日(十七日現在))



⑪ 東亜同文書院（大学）の歴代校舎

写真6 図書館

写真7 古思寮

写真8 校舎の鐘

写真9 長崎仮校舎 (1937.10~1938.3)
長崎市桜馬場町
1937 (昭和12) 年10月~1938 (昭和13) 年3月
第34期生~第37期生が学んだ校舎
第2次上海事変時の避難先、元長崎女子師範学校の校舎

写真10 海格路臨時校舎 (1938~1945)
上海徐家匯
1938 (昭和13) ~1945 (昭和20) 年
第35期生~第46期生が学んだ校舎
虹橋路校舎が戦火で焼失したのち、同じ地内にあった交通大学 (現在の上海交通大学) が疎開したあとを、臨時校舎として借用した

写真11 呉羽分校校舎 (1945.7~12)
富山県婦負郡呉羽村小竹
1945 (昭和20) 年7~11月
戦局の激化にともない、新入生2百数十名は上海へ渡ることができなかったため、呉羽航空機株式会社 (旧呉羽紡績) の工場と宿舎を借用し、分校を開校した。敗戦による一時休校後、10月に復員学生を加え再開したが、12月15日授業を打ち切った

(地名は当時)

⑫ 東亜同文書院（大学）の歴代校舎

写真1 桂墅里校舎 (1901.1~1913.7)
上海南郊
1901 (明治34) 年1月~1913 (大正2) 年7月
第1期生~第12期生が学んだ校舎

写真2 大村仮校舎 (1913.8~10)
長崎県大村町
1913 (大正2) 年8~10月
第10期生~第12期生が学んだ校舎
第2次革命の戦火により7月29日桂墅里校舎全焼のため1年生は正法寺、2年生は本経寺を借用

写真3 赫司克而路仮校舎 (1913.10~19)
上海閘北
1913 (大正2) 年10月~1915 (大正4) 年
第11期生~第16期生が学んだ校舎

写真4 虹橋路校舎 (1915.9~1937) 上海徐家匯
1915 (大正4) 年9月~1937 (昭和12) 年11月
第14期生~第37期生が学んだ校舎
1937年11月第2次上海事変の戦火で焼失した



写真5

書 院 生 活



①⑨ 書院生活

写真9 学芸部『江南学誌』
学芸部の『江南学誌』（1930年創刊）には、中国農村問題や中国革命についての論文がのった

写真10 日支闘争同盟ピラ
1930（昭和5）年、日本海軍の陸戦隊の兵士に、左翼学生は反戦ピラを配布し、中国への軍事干渉に反対した

記事11 左翼学生の逮捕を報じたもの
『紅旗日報』1930.12.28

写真12 避難勧告掲示
1932（昭和7）年1月
第1次上海事変で、避難を呼びかける自治会掲示

写真13 長崎引揚げで本館前に集まる書院生
「諸君は中国に関する商業学を学ぶため、特に恩典をもって、徴兵を猶予されている身分である。国家の命を俟たず、ほしいままに戦争に従事するなどの挙動がある。この院長の目の黒いうちは、一人たりとも戦場に出ることを許さぬ。若し強いて出たい者には、たった今、退学を命ずる。又、教職員諸君も此の際、自由な行動をとられるに於ては、学生同様である」
引揚げ時の大内暢三院長の訓示

写真14 学徒出陣
1943年12月1日、静安寺路（現 南京西路）を行進する学徒出陣の書院生

写真15 卒業証書

写真1 出迎え
校旗を振り、太鼓を打ち、院歌、寮歌を合唱して新入生を匯山碼頭に出迎えた

写真2 校門をくぐる
正門（赤門）に入るや、上級生が旗を振り歓呼して新入生を迎えた

写真3 対面式
入学当日に、新入生（白線帽）と上級生との対面式が校庭で行われる

写真4 東亜同文書院学科課程表

写真5 中国語の授業
中国人教師の日本人教師がペアを組み授業を行った

写真6 念書
校庭のそこそこで二、三人の新入生に一人の上級生がついて中国語の発音を徹底的に指導した

写真7 図書館閲覧室
戦時下にあっても図書館では『資本論』や列寧（レーニン）の本がひそかに閲覧された

写真8 ボート部
ガーデンブリッジに近い蘇州河に艇庫があり、ここから黄浦江に漕ぎ出して練習した。ボートはスライド式でエイトもフォアもあった

⑫ 図表 上海東亜同文書院卒業生・在学生
現況一覧表
1912年11月



⑬ アルバム 第5期生(1906年)、第6期生
(1907年)卒業記念



⑭ パンフレット 東亜同文書院一覧
1937年7月当時のもの

⑮ 図表 学科課程表 1930年度、1937年度



⑯ 書籍 『華語萃編』初集～4集他
『華語萃編』は東亜同文書院の中国
語教科書。
創立期の愛知大学でも使用された



⑫9 記事 同文書院学生募集広告
『民国日報』1924.3.5
『東京日日新聞』1937.1.21



大旅行と「旅行報告書」



⑫7 図表 世界のスケールの踏査旅行



⑫8 図表 大旅行行程略図
写真 第13期生、江西コース出発時の一行
第5期～第23期のコース図



⑫9 マイクロフィルム 調査旅行書のマイクロフィルム 雄松堂



⑫8 記録 東亜同文書院調査報告書
(愛知大学豊橋校舎図書館所蔵)
書院生のロマンをかきたててやまぬ調査旅行は年次により差がある。20世紀前半期の中国で半世紀にわたり実施された旅行コースは700コースに達する

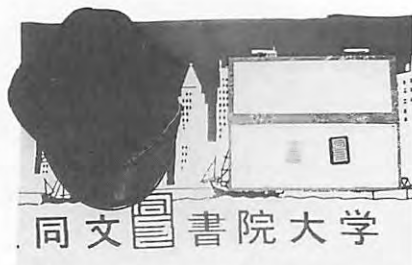
東亜同文書院学籍簿・成績簿など



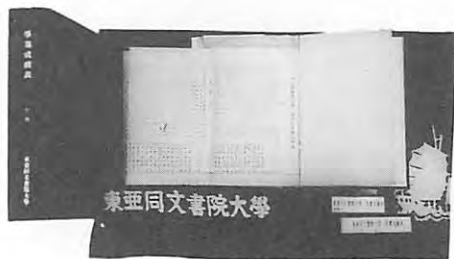
- ⑬⑩ 資産接收書 1945年11月 国民政府教育部京滬区特派員辦公處が同文書院大学の全資産を接收した



- ⑬⑪ 学籍簿 愛知大学教務課保管



- ⑬⑫ 東亜同文書院大学学帽・バッジ



- ⑬⑬ 成績簿 愛知大学教務課保管



- ⑬⑭ 『支那省別全誌』ほか
同文書院の調査報告書に
もとづき東亜同文会が遂次
刊行した